

# LD等通級指導教室学習指導案（自立活動）

指導者 廣森 貴恭

## 1 単元名 「自分について知ろう ～ぼくのニセモノをつくるには～」

### 2 単元について

本校通級指導教室には現在14名（自校通級1名、他校通級13名）の生徒が通っている。学校（クラス）で大きなトラブルを抱えている生徒は少ないため、2週間から1ヶ月に一度のペースで通級しているケースが多い。ただし、個人の状況を見てみると、クラスでのトラブルはないがコミュニケーション面や生活面で課題を抱えている。したがって、クラスでの適応より将来を見据えた社会性、コミュニケーション面の向上が指導の中心となっている。

本校通級指導教室では、個人の課題とリンクさせながら年間の指導内容として、1年次「自己理解」、2年次「将来の目標」、3年次「進路学習」に取り組んでいる。1年次「自己理解」の学習は、中学校に入学して自分のことをこなすことが精一杯の生徒に、周りへと視野を広げていくためにまずは自分のことを知ってもらうことを目的としている。2年次「将来の目標」の学習は、中学卒業に向けて高校進学がゴールではなく、その先にまで目を向けて進路選択、目標設定をしていくことができるよう、2年生の段階で取り入れている。3年次「進路学習」は、在籍校の進路指導に合わせ、学力だけの進路選択ではなく、自分が進学先に何を望み、何を優先していくのか等を一緒に考えている。

今回の指導対象生徒は（以下省略）。

本単元では、上記の「自己理解」の学習と共に本人の課題である「自分の思いや考えを言語化する」ということをねらいとする。本生徒も半年間中学校生活を送ってきたが、体育祭、校外学習、定期テストなど、行事をこなすことで今までは精一杯だった様子がうかがえる。通級指導でもそれらの活動の事前・事後学習が中心となっていたため、ここで自分（本人の課題）について向き合う単元を設定した。まずは、一般的な常識として知っておかなければならない自分のデータ（身体的特徴）の学習をする。次に自分の好みや性格、将来の希望など、具体的な内容からイメージの部分へと話を進めていく。この学習を通して、今まであまり考えてこなかった自分のことに目を向けると同時に、自分のことを知ることで周りの人に対する興味や視点を身につけてほしいと考える。

また今回は、学習のベースとして『ぼくのニセモノをつくるには』（ヨシタケシンスケ著、ブロンズ新社、2014）という絵本を扱う。本書は主人公がニセモノ（お手伝いロボット）に自分の代わりになってもらおうとするが、ロボットから「あなたのことを詳しく教えてください」と言われ、自分について考えていくという内容である。本生徒は機械操作が好きということもあり、お手伝いロボットに自分のことを説明していくというベースで本書の内容を随時取り入れ、興味を持ちながら自己理解の学習を進めていくことができるようにする。また、自分のことを他人に説明するためには、抽象的な部分を言語化していく必要がある。本生徒も思いは持っていない、考えをまとめたり、話したりすることは苦手としている。「自分のことだからわかっている」と思い込んでいる部分を、誰かに説明をするという取組を通して言語化し、それによって自己理解を深めていくことを目指したい。

### 3 単元の目標

- ①自分の身体的データや好みを知ることができる。
- ②自分の考えているイメージ（好みや性格）を言語化することができる。
- ③自分のことを知ることで周りの人への見方（接し方）を考えることができる。

### 4 生徒の実態（省略）

5 単元指導計画（全5時間扱い）

時	内 容	学習形態
1	もしもお手伝いロボットがあったら・・・	個 別
2	自分の基本データを入力しよう	個 別
3	自分のできること、できないことを考えよう（本時）	個 別
4	自分の性格やタイプを考えてみよう	個 別
5	周りの人から見た自分をイメージしてみよう	個 別

6 本時の目標と展開

(1)本時の目標

- ①天候や出来事の報告を自分の考えた言葉で伝えることができる。
- ②自分のできること、できないことを挙げるができる。
- ③できること、できないことの中にも得意・苦手などの違いがあることに気づくことができる。
- ④授業の感想を書くことができる。

(2)本時の展開（3／5）

時配	学習内容と活動	指導や支援の手立て（◇は評価）	備考
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号令により挨拶をする。</li> <li>・今日の日付、天候等を確認する。</li>   <li>・最近あった出来事の報告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の大きさ、姿勢、目線など、気になるところの言葉かけをする。</li> <li>・「普通」「ちょうどいい」などの言葉が出てきたときは、他の人にもわかるような言葉と一緒に置き換える。</li>   <li>・「いつ」「どこで」などに気をつけながら、内容を整理できるように話を引き出す。</li> <li>・内容により、できたこと・よかったことなどプラスの評価をできるようにする。</li> <li>◇自分の考えた言葉で報告をすることができる。</li> </ul>	ホワイトボード
4	<p><b>自分のできること、できないことを考えよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時はお手伝いロボットにインプットするためのデータとして、自分のできること・できないことを考える学習であることを聞く。</li>   <li>・自分のできることを自由に発表する。                      &lt;予想される反応&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の操作</li> <li>・わからない（考え込む）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しく考えて答えが出ないことが予想されるが、この段階では質問はしない。</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ぼくのニセモノをつくるには』の中で主人公が考えたできること・できないことを見る。</li> <li>・主人公のできること・できないことを自</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分では「できて当たり前」だと思って</li> </ul>	絵本

<p>1 2</p>	<p>分にあてはめて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらためて自分のできること・できないことを考えて、マグネットシートに記入する。(3つずつ。できることは赤、できないことは青で記入)</li> <li>・ホワイトボードに記入したものを貼る。</li> <li>・こちらから提示した内容のマグネットシートをできること・できないことに分けて貼る。(できることには赤、できないことには青でマグネットシートに印をつける)</li> </ul> <p>&lt;提示する内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蝶々結び ・字を書く</li> <li>・リンゴの皮むき ・とび箱</li> </ul>	<p>いることも周りから見たら「できること」として考えられるという視点を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の話をふまえて難しく考えすぎないようにアドバイスする。</li> </ul> <p>◇自分のできること・できないことを挙げるができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらから提示する内容は後の流れをふまえ、本人ができることだがあまり得意ではなさそうなものをあえて選ぶ。</li> <li>・分けたものについていくつか質問をする。</li> </ul>	<p>マグネットシート</p> <p>ホワイトボードマーカー</p>			
<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できること・できないことに分けた内容(マグネットシート)を得意・苦手という分類で再度分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる・できないとはまた視点を変えて考え直すということを伝える。</li> <li>・分けたものについていくつか質問をする。</li> </ul>				
<p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できること・できないことの中にもそれぞれ得意・苦手という違いがあることを知る。</li> </ul> <div data-bbox="240 1249 735 1525" data-label="Diagram"> <p style="text-align: center;">できる</p> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">得意</td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="padding: 5px;">苦手</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">できない</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(時間があれば)「得意・苦手」を「好き・嫌い」に変更し、再度分類してみる。</li> <li>・次時の授業内容を確認する。</li> </ul>	得意		苦手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボード上で「できる+得意」「できる+苦手」など4種類に改めて分類し、わかりやすく表示する。</li> <li>・「できるからよい」「できないからだめ」という単純な考え方ではなくいろいろな捉え方ができるということを伝える。</li> <li>・自分もそうであるように、周りの人も同じようであること・できないことがあるということを伝える。</li> </ul> <p>◇単純に「できる・できない」だけではないことに気づくことができる。</p>	
得意		苦手				
<p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の予定と今日の授業の感想を記入する。</li> <li>・終わりの挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出時の報告など、言動に気をつけられるように言葉かけをする。</li> </ul> <p>◇授業の感想を書くことができる。</p>	<p>連絡帳</p>			